

独裁運営 子どもが犠牲

虐待の連鎖

児童養護施設を救え

母親の虐待で入所していた小学四年の女児を家庭に戻すことが突然、決まった。担当の女性職員(ミ)には一言の相談もなく、児童養護施設を牛耳る女性院

現場の声 集約不可欠

長の独断だった。

女児は埼玉県川越市の「埼玉育児院」で、「てめえ」「触るな」と年下に怒鳴り散らしていた。だが、その姿とは裏腹に、たまの一時帰宅から戻ると表情はこわばり、体を小さくしていた。「復帰はまだ無理だ」と思うのに

悪い予感は数年後に的中した。母親のネグレクト(育児放棄)は



施設内でバスケットボールをして遊ぶ子どもたち。施設改革で子どもたちにも過ごしやすい環境になった埼玉県川越市の埼玉育児院で

た。「中学にも満足に悪い」とたたき、「あ痛感した。望んでいた行けず、高校進学をあんたは捨てられた子」養護がようやくできるきりめたそう……。職と言いつつ、誰も何も言えない雰囲気は覆わ言えなかった歯がゆさで覆われていた。改革が始まったのは二〇〇四年、職員の内務部発表がきっかけだった。県は院長の暴言や学園(東京都)の黒田邦夫園長は「問題が起る施設に共通するのは非民主的な運営。典型的なのは創立者一族の継承者が独裁的運営を行うケース」と指摘する。埼玉育児院も前院長が親から経営を受け継いだ同族経営だった。

下 変わっていきなかった。中学に進んだ女児から届いた手紙。母親が新たな男性との間の子を産んだが、夜の仕事を忙しく、世話を自分がしていると言われている。職員を威圧した。子どもにも対しても「態度が

最大の変革は組織の「民主化」だった。職員会議を定例化し、現場の意見を吸い上げて合議で決める体制を整えた。子どもの進路や家庭復帰は担当職員を中心に全員で協議し、児童相談所とも連携して慎重に進める。以来、女児のような事例はなくなった。女性職員は「自分たちで考えながら物事を決めたい」という思いが強い。卒園後も訪ねてくる子どもたちの笑顔に、心がなごむ。施設の改善に多く携わった二葉むさしが丘学園(東京都)の黒田邦夫園長は「問題が起る施設に共通するのは非民主的な運営。典型的なのは創立者一族の継承者が独裁的運営を行うケース」と指摘する。埼玉育児院も前院長が親から経営を受け継いだ同族経営だった。「民主的な運営体制をいかに整えるか。職員の意欲を引き出せば養護の質が向上し、子どもも落ち着く」と黒田さんは言う。改善の処方箋は、いつも変わらない。「ごく当たり前のことをす

るのはいかに大変かと担当しました」

2010年(平成22年)12月15日(水曜日)

(第3種郵便物認可)

性非行の根 教育で断て

虐待の連鎖

児童養護施設を救え

「セックスについて知っている人は手を挙げて。恥ずかしがらなくいいよ」

中学生十一人の手が、ちらほりと挙がる。児童自立支援施設「千葉県生実学校」(千葉市)職員石澤方英さ

ん(三)が、漫画風に描いた手づくりの紙芝居を使い、性の正しい知識を説いていく。石澤さんは元小学校教諭。六年前に児童福祉の世界に転じ、性問題の深刻さに驚いた。児童養護施設で年下の女児や男児に性的虐待を加え、移されてきた

ん(三)が、漫画風に描いた手づくりの紙芝居を使い、性の正しい知識を説いていく。石澤さんは元小学校教諭。六年前に児童福祉の世界に転じ、性問題の深刻さに驚いた。児童養護施設で年下の女児や男児に性的虐待を加え、移されてきた

教材、手法 全国へ発信



手作りの紙芝居で性教育を行う石澤さん(千葉市の児童自立支援施設「千葉県生実学校」で)

施設で再び同じことをした少年が、ぼつりと「自分がやられた時、大人は守ってくれなかった」とこぼした言葉に胸を突かれた。少年は以前、養護施設で同じ被害を受けていた。「発覚した時点で適切な対応が取れていれば、少年が加害者になることもなかっただろうに」

施設には、親の愛情不足や家庭環境などか

施設での性的虐待の実態は、なかなか表に出せない。深刻さを裏付けるために、研究会は近く全国調査を行う予定だ。データを基に、子どもたちをケアする専門職員の増員などを国に求めているという。

石澤さんは訴える。「必要な教育もせずに子どもが性非行を繰り返したら、それは大人の責任です」

現場と資格 溝大きく

虐待の連鎖



児童養護施設を救え

子どもの側頭部にはつきりと残る傷あと。電気ポットの底で殴りつけ、大きく開いた傷口を母親が手で縫ったのだという。目を覆いたくなる写真が次々と映し出されていく。

NPO法人「こどもサ

上

ポトネットあいち」(名古屋市中)が開く児童福祉施設職員養成の連続講座。児童養護施設の施設長が、虐待を受けた子どもの実情を説明している。受講生の大学四年小木曾彩乃さん(三)「愛知県豊春日井市」は「大学でなり現場に配属されている言葉として学んでいた見たも怖い」と思った。児童養護施設で働くに月一回三時間、一年間童虐待とは、重みが全然導く」と実感した。児童養護施設で働くに十二回の講座は児童養護は、保育士を目指す大学は、保育士を目指す大学の課程では習ったことのない話ばかり。被虐待児だが、文部科学省が定めるし就職するのが一般的。師を務める。座学だけでは、保育士なら保育園や幼稚園の勤務を想定した場を知るプロから少しで授業が中心。子どもとの遊びや触れ合いの方法も多くのことを学び、子どもたちが人間らしく生かす、育っていくための援助者になってほしい」と長谷川理事長は願う。

実践的な教育課程必要

福祉は一分野にすぎない。現場で通用する職員を育てるには、現状の教育課程ではとても足りない」と、同ネットの長谷川真人理事長は指摘する。職員をを目指す学生のためにネットが始めたのが、連続講座。理念に賛同した日本財団の助成を得て、昨年四月に名古屋市中区の日本福祉大・名古屋キャンパスで開講し



講師の話に耳を傾ける受講生一名古屋市中区で

児童虐待の急増に伴い、家庭で虐待を受けた子どもが多く入所する児童養護施設。施設での暴力問題の実態を取り上げ、施設を救う手だてを探る。